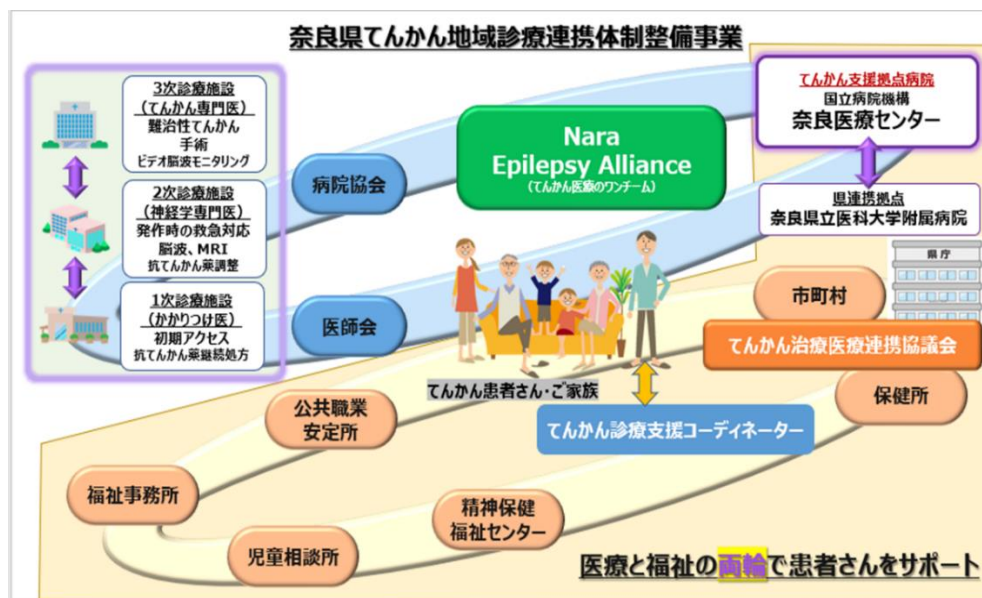


2.2. 奈良県てんかん対策地域診療連携整備体制事業（2023年度）報告

国立病院機構奈良医療センターてんかんセンター 平林 秀裕 澤井 康子

まとめ

- ・奈良県におけるてんかん対策地域診療連携整備体制事業は、2021年4月、てんかん診療拠点機関として、国立病院機構奈良医療センターが指定され、奈良県立医科大学附属病院が連携機関として機能することで、活動している。
- ・医療・福祉との連携をはかるために、医療・行政・患者代表メンバーからなる「てんかん治療医療連携協議会」を開催した。
- ・てんかん患者をサポートするために、医療者のチームとして、「Nara Epilepsy Alliance（以下NEA）」の会合を定期的に行っている。
- ・奈良県下のてんかん専門医の多くが当院での診療を行っており、専門医同士が相談できる体制となっている。
- ・てんかん教育普及・啓発のため、医療関係者向けの研修や医療関係者以外（患者・患者家族・学校関係等）の研修も行った。
- ・てんかん患者の医療・福祉に関する相談窓口となる「てんかん診療支援コーディネーター」の育成を積極的に行うとともに、相談業務を行っている。
- ・奈良県の関係医療機関に、ホームページ「てんかん支援ネットワーク」への参加を呼び掛けた。



【活動報告】

1) てんかん治療医療連携協議会（以下、協議会）の実施

2023年3月23日 第1回目の協議会を開催した。この際に、「奈良県てんかん治療医療連携協議会設置要綱」を協議会メンバーで確認。

第1回協議会では、協議会メンバーのうち「てんかん患者およびその家族」が未選出だったが、2024年1月、公募により、波の会奈良県支部代表田中宏明氏が選出された。その後、2024年1月25日に第2回目の協議会を開催した。

この協議会においては、協議会委員の紹介（表1）・診療連携のための情報共有の取り組み（榎原委員より報告）・てんかん支援拠点病院実績報告（澤井より報告）を行った。

表1 協議会構成員

	構成員
てんかん治療を専門に行っている医師	会長 奈良医療センター 平林秀裕 副会長 奈良県立医科大学 福島英賢 事務局 奈良医療センター 澤井康子 医師会 橋本クリニック 橋本浩 脳神経外科 奈良県立医科大学 田村健太郎 小児科 奈良県立医科大学 榊原崇文 脳神経内科 南奈良総合医療センター 小原啓弥 精神科 奈良県立医科大学 牧之段学
県疾病対策課 精神保健福祉センター	奈良県医療政策局疾病対策課課長 小島祐 精神保健福祉センター精神科 伊東千絵子
てんかん患者およびその家族	波の会奈良県支部代表 田中宏明

2) 波の会奈良県支部との連携

2024年3月には、てんかん支援拠点機関（奈良医療センター）と波の会と共催で市民公開講座・パープルデー企画を実施予定である。

3) NEA (Nara Epilepsy Alliance) 会合

てんかん患者が、適切な医療が受けられるように、県内のてんかん医療を提供する病院・診療所が連携して、てんかん医療の諸問題を検討する会議である。奈良県内のてんかんの診療を行う医療機関の医師を中心としたメンバー（詳細は2021年度報告書参照）で2021年11月に発足した。

引き続き、2023年度も当院が、奈良県診療拠点病院として認定されたことの告示とともに、7月25日・12月14日にNEAを開催し、NEAメンバーの確認・拠点病院報告を実施した。

4) 奈良医療センターてんかんセンターの診療状況

現在、当院では、脳神経外科・脳神経内科・小児神経科の医師（常勤・非常勤含む。うち、てんかん専門医9名）がてんかんセンター外来を担当している。月に約500名の外来患者が来院される。難治症例については、県下のてんかん専門医同士が連携して診療にあたる体制をとっている。

奈良県立医科大学附属病院とは、脳波所見等をテレビ会議で討論できるシステムも備えており、症例の相談がお互いに迅速にできる体制である。

てんかん診療の質の確保にはかかせない長時間ビデオ脳波検査は、ここ数年、年間約100-120例を行っている。奈良県下では、充実したビデオ脳波モニタリングシステムが行える医療機関に限られており、他院からの依頼も多い。脳波解析専門技師3名が専門的に検査を担当・解析業務にも携わっている。小児から成人まで幅広く対応している。

てんかん外科適応症例については、主に当院で長時間ビデオ脳波検査を行ったのち、カンファレンスでてんかん外科の適応等を決定し、その後、連携機関である奈良県立医科大学附属病院で実施している。

5) 研修・啓発活動の主催

◆院内研修・院外研修

◇てんかんカンファレンス（医療従事者対象）

奈良医療センターのさくら講堂にて、第一木曜日17:30より、近隣病院のてんかん専門医が参加して、長時間ビデオ脳波検査の解析・難治症例に対する治療方針等を検討している。医師のみならず、多職種の参加があり、毎回、約20名程度が参加している。

また、2022年1月より、NEAメンバーに対して、WEB配信も行っている。

◇患者・医療関係者・一般市民向けの研修

	内容	講師	対象
2023年3月12日	市民公開講座 「てんかんを知ろう」	澤井康子（医師） 田中ありさ（看護師） 坂東和晃（心理療法士）	一般市民
2023年3月26日	パープルデー企画 「郡山城の紫のライトアップ」		

2023年8月22日	てんかん支援拠点病院勉強会	矢崎耕太郎（医師） 澤井康子（医師） 田中ありさ（看護師） 東奈緒子（心理療法士） 大杉奈保美（臨床検査技師） 辻友博（社会福祉士）	学校教職員
2024年1月25日	てんかんについて	矢崎耕太郎（医師） 田中ありさ（看護師）	当院職員
2024年2月8日	学校保健委員会勉強会 「てんかん」	矢崎耕太郎（医師） 坂東和晃（心理療法士）	特別支援学 校職員・ 生徒家族
2024年3月23日 （予定）	市民公開講座・パープルデー企画・ 春の健康まつり		一般市民

4) 相談事業・てんかん診療支援コーディネーターの育成

外来に「てんかん相談室」を設置している。てんかん患者・家族が気軽に立ち寄り、てんかんに関連する様々の相談ができる場所である。対応するのは、てんかん診療支援コーディネーター（以下、コーディネーター）である。

コーディネーターは、国立精神・神経医療研究センター主催の研修会・全国てんかんセンター協議会（JEPICA）参加で研修を受けた者が正式に認定される。奈良県におけるコーディネーター登録者は、看護師10名 社会福祉士2名 療養介助員1名 医師1名となっている（2024年1月現在）。いずれも、奈良医療センターの職員であり、今後、院外にも、コーディネーター登録が増えるように活動を広めてゆく予定である。

2021年5月から相談業務をはじめているが、2021年5月～2023年12月に、108名の相談があった。本人からの相談31%、家族からの相談48%、医療関係者からの相談12%だった。相談方法としては、直接面談が約半数、メール・電話等での相談が約半数である。相談内容は、心理社会的問題に対する相談30%・受診相談28%・制度やサービスについての相談15%であった。

5) てんかん支援ネットワーク（てんかん地域診療連携体制整備事業により運営されている。インターネット上で公開中）の整備

奈良県下の各医療機関に郵送にて、登録の可否についてたずね、ホームページを整理。県下医療機関のてんかん医療への連携の意思について実態把握をおこなっている。また、てんかん患者がより適切に、医療機関につながりやすいように整備を進めている。